

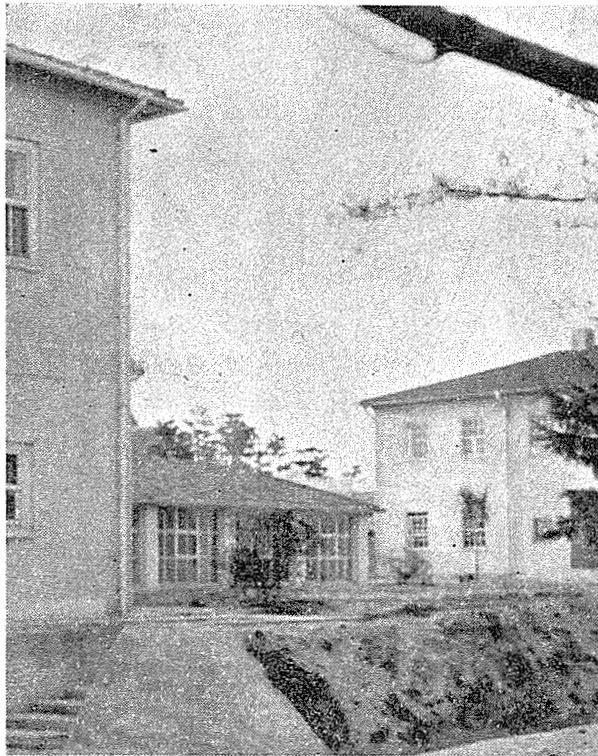
THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, May 15th, 1954. No. 269

關西大學學報

第 2 6 9 号

昭和 29 年 5 月



大 学 院 (千里山学園)

關西大學學報局

學外研究員だより

大阪出発の際は御見送りに預り有難く御礼申し上げます。少々予定を変更し、去る五月二十八日午後ニューヨークに到着致しました。唯西から東へ横断しただけでアメリカを見たとも云えないのですが、矢張り印象の新しいうちに書いて置いた方がよいとも云われますので、以下若干素通り印象記を書いてみませう。

△ 予定通り五月九日ロスアンゼルス着、そこからサ

アメリカの第一印象

ニューヨークにて

森川太郎

ローゼンシュタイン、ロダンの風姿を目の当りに見、報告、討論等について深い印象を受けました。コ大学の学会関係者からは遠来の客として親切な待遇を受けました。

△ ニューヨークの第一印象は一寸大阪に似た感じですが。河が多く、ビジネス・センターのダウンタウンの方は雑踏していて幾分ゴミゴミした感じであり、郊外は工場地帯についでいます。大阪の建物を十倍程高くして立体的にすればこんなものかと思いましたが。シカゴからの飛行機で隣合せた青年に「ニュー

ヨークへ帰るのか」と聞いたら、「いやワ、シントンへ行く、ニューヨークは汚くてキライだ」と眉をしかめていましたが、成程と思えます。

ンフランシスコ、ソルトレーキシティ、デンヴァーとバスの旅行をつけ、デンヴァー→シカゴ→ニューヨークの間は飛行機で飛びました。大学当局よりコロンビア大学創立二百年祭記念の経済学会に出席するようにとの連絡があり、同大学の招待状がシカゴの日本領事館気付にて届いていたため、途中の日程を切詰め東へ急いだわけです。学会は二十六日から四日間連続したのですが、小生は二十八日午後ニューヨークについたため、最後の二十九日に一日出席しました。それでもアメリカ及び各国から参集した経済学者ロバートソン、ライオネル・ロビンズ、ミルダール、ナイト、エンゼル、J・M・クラーク

△ サンフランシスコではカリフォルニア大学のH・S・エリス教授、シカゴではシカゴ大学のF・A・ハイエック教授に会いました。それぞれ一時間程づゝ経済学や、現在の世界的な経済問題について話しましたが、この国の経済学者達が資本(自由)主義社会の将来を信じ、アメリカの景気後退は政策で防ぎ止し得ると確信している態度の強さには聊か驚きました。エリス教授にマツカシズムに対する経済学者の態度を訊きましたら、それは政治問題であつて別だと簡単に割切つているのにも、一寸不思議な気がしました。

△ バスでカリフォルニアの平原を通り、ロツキイの山嶽地帯を通過した印象で一番強いのはアメリカの広漠たる国土です。行けども行けども山影の見えない伏野、砂漠と云うより寧ろ未開発の高原、そして人家も見えないところに牛や馬の放牧されている姿——こう云う風景を見ると直ぐ故国の稠密な人口を対照的に思い出します。現在我國の当面している経済的な諸困難は結局この人口の問題に帰することを痛感しました。人口と領土との世界を通じての今少し合理的な調和が図り得られないものであらうか。アメリカ的なヒューマニティは勿論これを肯定すべき筈である。けれども人種的偏見を背く措いても、アメリカのこの国土が如何にして得られたかに、考えさせらる一つの問題があるようです。即ちそれはアメリカ人が所謂バイオニアの精神を以て西へ西へとその領土を拡げて来た努力と犠牲です。それは絶えずバッファロと戦い、インディアンを征服して荒蕪地を開拓して行つた逞しい精神の所産ではないかと思ひます。小生の通つて来た中部の都市には屢々街の中央にその都市の建設者のモニュメントが立つていましたが、それは武装して西を指している立像であるのが常でした。而もそれが歴史的に新しく百年、二百年前の事歴です。こゝにヒューマニティだけは解決出来ない問題が残ります。アメリカに来て我國の人口問題を深刻に考えさせられました。これ等の点まだ関連する問題が多いのですが、又別の機会に致しませう。

(一九五四・六・一、ニューヨーク市エムパイア・ホテルにて記) (経済学部教授)

學内報

定例評議員会

学校法人関西大学寄附行為第十九条による定例評議員会は、五月二十七日(木)午後三時より千里山学舎大学ホールで開催し、昭和二十八年年度学校法人関西大学蔵入出決算及び昭和二十九年年度学校法人関西大学本会計蔵入出追加予算の件について審議の結果これを承認した。

なお会終了後千里山法・文学舎新築の進捗状況を視察した。

出席者(イロハ順敬称略)
飯田莊三郎、岩崎卯一、岩本公夫、今西庄次郎、池田信之助、西尾専太郎、西村治三郎、西山四郎、西本寛一、戸根泰雄、織田佐代治、大小島真二、大島武夫、和田豊二、桂忠雄、神屋敷民藏、榎本信雄、四辻詮、竹沢喜代治、内藤正剛、中務平吉、長柄金吾、浪江源治、村尾静明、宇佐美正祐、矢野文雄、矢口家治、保井剛一、松葉徳三郎、松原藤由、政井武、近藤政士、明石三郎、沢村栄治、木原繁美、木村健助、宮島綱男、白川朋吉、下条小野右衛門、平井三朗、久井忠雄、角田好太郎、鈴木祥藏、園師親徳、三島律夫

口財團

フアーズ博士來學

本学東西学術研究所との学術交換に努

力しているロッキングフェラー財団法人文学部長C・B・フアーズ(Charles B. Fairs)博士は五月十三日來學、研究状況見学のし今回は特に同氏より「国際経済上に占める大阪の役割を知るため、在阪知識人や財界人の意見を聞きたい」との宮島理事への要請どおり、官、財、言論各界の代表者を招待し、本学学長、理事、教授等と共に午前十一時より約二時間ゆやかな懇談会を開催した。

懇談会出席者(順不同、敬称略)

大田原大造(大阪商工会議所副会頭久保田鉄工所社長) 駒村資正(大阪商工会議所副会頭江商株式会社社長) 大塚兼紀(大阪府副知事) 熊本良忠(朝日新聞社経済部長) 影林能次(毎日新聞社論説委員) 石川昇(産経大阪新聞社経済部長) 村山高(大阪紡織協合理事調査部長) 若菜三良(大和銀行取締役) 秋武忠左衛門(大和銀行天

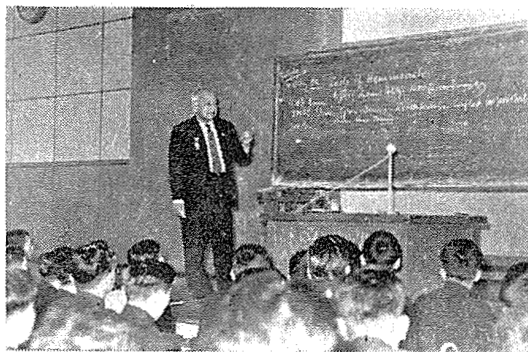


フアーズ博士を囲む懇談会

カリダス・ナーク博士講演

世界平和会議インド主席代表、国会議員、カルカッタ大学教授カリダス・ナーク博士

六支店長) 山本弘(住友信託銀行常務取締役) 白川理事長 岩崎学長 久井専務理事 春原理事 宮島理事 矢野常務監事 堀教授 矢口教授



ナーク博士講演

グ博士(Dr. Kaldas Nag)は五月七日來學、午前十一時より約一時間にわたり左の講演を行った。

演題「インドの政治学」

ドナルド・キーン博士講演

ケンブリッジ大学講師ドナルド・キーン(Dr. Donald Keene)博士を迎え、五月十九日(水)午後五時より大学ホ

ルにおいて、国文学科ならびに英文学各教授と懇談会を開催、翌二十日(木)午前十時より大学院講堂において関西大学英文学会ならびに関西大学国文学会主催の下に同博士の学術講演会を開催した

演題「比較文学について」

なお午後には同博士の希望により堀、飯田吉永各教授と文楽座を鑑賞した。

関西大学図書館講習所開講

本講習所は勝れた技能をもつ図書館専門職員の養成を目標として、去る昭和二十四年四月開設されて以来、既に四回にわたつて多数の修了者を出し、昨二十八年度は都合により休講したが、本年度は従来よりも教科目と授業時間を増加充実して、五月二十二日より十二月十八日まで開講する。

就職講座開講

本年度就職講座は五月十日より七月三日まで、(毎日午後四時より七時まで)千里山経商学部学舎で開講される。

課目は主として実務に必要な、例えば改正会社法、商事解説、貿易実務、商業英語等である。

人事異動

昭和二十九年五月三十一日付
商学部兼任を解く

教授 山口辰雄

学外 研究员

廣瀬教授

ヨーロッパへ

文学部廣瀬捨三教授は、昭和二十八年
度在外学術研究員として一ヶ年間中世英
文学および神話学研究のため、五月二十
七日零時三十分発「はと」号で大阪駅出
発、六月二日午前七時三十分羽田国際空
港よりエール・フランス機でヨーロッパ
へ向つた。

なお同教授は最初イラクのパクダード
に飛び、爾後イスラエル、エジプト、ト
ルコ、ギリシャ、イタリー、フランス、
アメリカ、ベルギー、メキシコ等へ向い、
各地の大学に学び、博物館、遺跡等に研
究を行うことになつている。

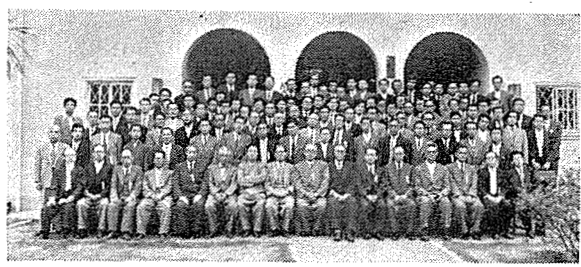
大阪にて



関西社会学会

関西社会学会第五回大会は、五月二十
九・三十両日に亘り、本学大学院におい
て開催され、関西各大学社会学者を中心
として、日本社会学会林惠海会長顧問戸
田貞三博士(前会長)を始め関東地区か
ら十数名

北海道大
学金田弘
夫助教授
(本学昭18
法学部卒)



関西社会学会

を交え百四十名参集し、本学からは学会
理事の岩崎博士、井上吉次郎教授、小山講
師及び原、上林両助手が加り、充実した
研究発表と質疑応答が行われた。研究発
表者五十名は理論研究と実態調査に分れ
第一日

ウェーバーの支配論に於ける分析方法について
大阪大学 高橋 純 平
開拓部落に於ける農家の Socio-economic
status の測定
北海道大学助教授 金 田 弘 夫
徳島県南漁村福祉の实態
徳島大学教授 富 野 敬 邦

産業社会学の二つの方針
横浜市立大学教授 早 瀬 利 雄
近代初期に於けるロシアの家族
京都大学 村 井 研 治
プレツヤイグループについて
関西大学助手 上 林 良 一

第二日
近代社会に於ける競争
三重大学 長谷川 昭 彦
富山県砺波地方放居村落の調査
金沢大学教授 井 森 陸 平

等があり、就中、第一日午後には岩手
県に於ける一農村の調査報告の題下に、
京都大学白井二尚教授、益田庄三助手等
数名による研究発表は、美麗な幻燈写真
に飾られまさに本大会の圧巻であつた。

第二日正午には顧問大阪大学高田保馬教
授も交え役員招待会が開かれた。

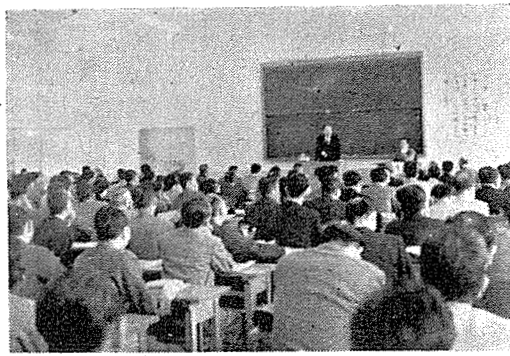
第九回近畿地区大
学
一般教育研究会開催

近畿二府四県の大学において一般教育
を担当する教官により組織せられてい

同研究会の総会が、当番校の本学におい
て、去る五月十六・十七の両日にわたつ
て開かれた。十六日は、会員二百七十名
の参会を得て、午前十時より、松原滋
賀大教授司会のもとに、岩崎本学々長の
挨拶、堀本学教授の「欧洲より帯りて」
と題する講演、ビール会社の見学、部会
総会と多彩な行事を消化し、翌十七日は
会員六十余名によつて吉永本学講師の解
説で文楽座の鑑賞を行つた。

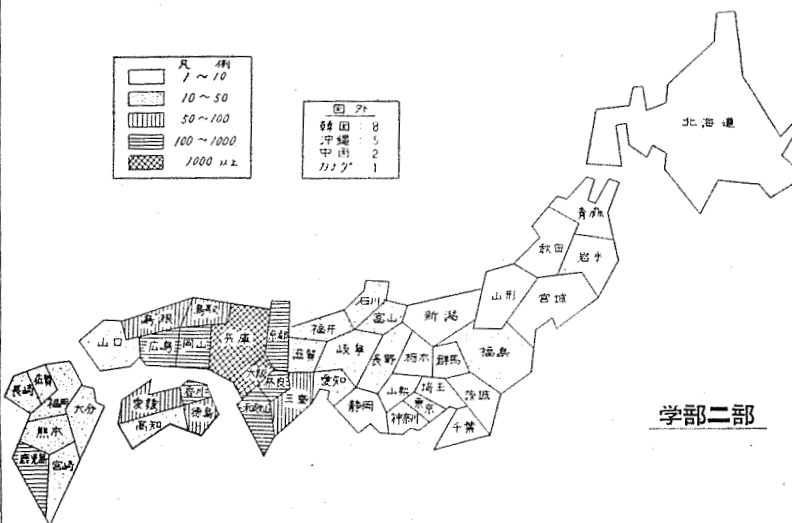
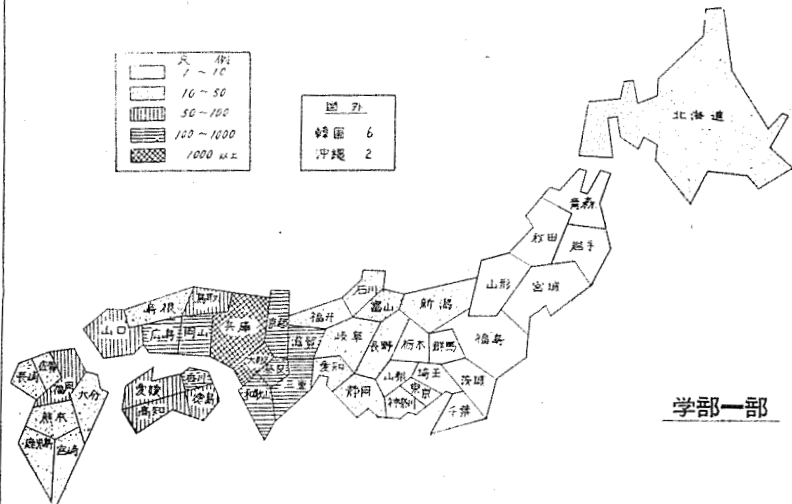
社会経済史学会
社会経済史学会第二十三回大会は五月
二十二、二十三両日日本学で開かれた。

日本商業学会
日本商業学会第四回大会は五月二十一
二十二両日日本学ホールで開催された



一般教育研究会

出身府県から見た 学部学生数の現状



出身府県から見た本学在学生の分布は、総括的には近畿を中心として西にその基盤があるといえよう。
大阪は本学の所在地として圧倒的に多く、次いで兵庫がある。特に兵庫については、茲三年来より非常に急増している

傾向があることは注目して良かるう。その他隣接県については、大した変化がない。むしろ大阪、兵庫を除く近畿よりも、岡山、広島、鳥取、山口等が年々増加する傾向を示している。唯島根が少ないのは地理的關係だけではないであらう。

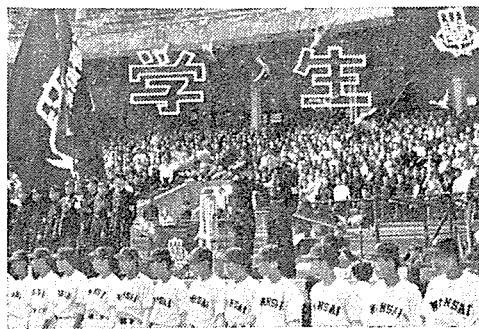
九州については香川を筆頭に、徳島、愛媛、高知の順で、何れも毎年同数に近い在學生を有しており、特に香川、徳島は増加しつつある。
九州においては、福岡が多く(二部は鹿兒島が圧倒的に抜出ている)大分がこ

れに続いてい。その他は、四国と同様に、平均した在学生数を示しているが、現在よりも、増加する可能性は多分にある。
中部より以東、以北の低率地区の中、毎年九州の佐賀、長崎、熊本と同数をもつ、福井、石川が筆頭して来ているのもまた考えるべき点であらう。
関東、奥羽は極く低率で、これは地理的原因によるものではないかと思われる。

北海道、新潟、長野より毎年一定した在学生を出しているのは、同地方がスキ一の盛んな地方であり、本学のスキ一の活躍と関係があると思われる。
分布図の通り、本学在學生の数は、近畿以西に圧倒的な数字を占めているが、殊に九州地方では福岡、鹿兒島、四国地方では香川、中国地方では広島、岡山が他県に抜き出ているのは、それぞれの地区に於て、比較的近代性を代表する県であるのは興味深い。

尙この事から今後の新しい開拓の目標も立てられるわけで、中部以東、以北よりも、一定数をもち又増加する可能性のある中国、四国、時に九州を益々、積極的に開發することが最も適切な方法ではないかと思われる。

(一九五四・五・一・調査課)



関々戦(記事参照)

学友会各クラブの活動は春の関西六大学野球を中心として、緑の千里山に、関西の各地に、やがて訪れて来る全日本の各種大会の前奏曲を高らかに奏なでみいる。これらの中から二、三を拾ひあげてみよう。

野球部 春の関西六大学野球リーグ戦も愈々大詰めに近かづき、シーズン初め順調なスタートを切ったが、中盤に来て同大に破れ、続いて神大に破れると云ふ大番狂わせで、シーズン最終の伝統的関々戦にも勝利が危やぶまれていたが、西宮球場に両校は応援団を繰り出したの応援、それに応へるナインの熱戦は六月四日、五日の両日、息詰まるやうなシーズンゲームに、投手戦に学生野球の真髓を

發揮、当日のスコアは次の通りであつた。これで本学は第二位になつた。
 6月4日 先関大0000101114 於西宮
 関学000000000022 於西宮
 6月5日 先関学031102000007 於西宮
 関大004000110118 於西宮



学 研 祭

本学より岩崎学長の挨拶、川上敬逸(法学部)、堀正人(文学部)各教授の講演、他大学よりは沼田稻次郎(東京都大)、小椋広勝(東大)、伏見康治(大阪大)、各教授の講演が行われ、盛大を極め、亦学生の側では雄弁会弁論、グリークラブ合唱、「また逢ふ日まで」の学研有志による演劇、シユブレヒコール、「愛は死を越え

て」等、学研部だけではなく他の学友会各部の援助出演を見、今迄にない多数の学生を集めたことは成功であつた。
拳斗部 第八回関西学生ボクシングリーグは六月六日優勝を賭けて関々戦が府立体育館で行われ、試合前、予想を許さぬ接戦が期待されたが、ライト、ウェルター級の遠藤(法学部)川島(関学)の最後の戦に優勝が賭けられ判定に惜しくも敗れ、六連勝の夢が阻ばれたが、新人の多い当部の今後精進が期待される。尙当日の戦績は次の通りである。
 6月6日 於府立体育館

- J.フライ級 関大 4-5 関学 ○川戸 判定 中塚 佐藤 判定 虎野 ○
- フライ級 尾見 判定 佐藤 ○
- バンタム級 ○稲葉 判定 辻本 ○三國反則勝 ○
- フェザー級 所 判定 武内 ○
- 成瀬 判定 高島
- ライト級 尾白 判定 平田 ○
- ライト、ウェルター級 遠藤 判定 川島 ○

弓道部 復活二年目を迎えて着々実力を養い各種大会に優秀な成績をあげているがその戦績は次の通りである。
 5月3日-5日 全国弓道選手権大会 於京都 済 寧 館
 予一日 小的競技 優勝 松岡四段 学生の部
 なお5月9日より開かれた春季リーグ戦成績は次の通りであつた。
 5月9日本学 55中-53中 立命 於鐘紡道場
 本学 49中-31中 京大 " " "

5月16日本学 57中-49中 奈良医大 於櫻原道場
 本学 86中-65中 天理大 " " "
バスケット 関西学生新人バスケットボール大会最終日は、七日午前十時より大阪府立体育館で準決勝に引き続き決勝戦を行つたが、堂々と関学を破り二連覇を遂げた。
 準決勝 関大 69 (25 | 20) 立命大 44 (13 | 35)
 決勝 関大 66 (32 | 24) 関学 34 (13 | 39) 63 関学

交響樂團 新編成による交響樂團は文化祭を控えて、学内の定期演奏会を経商講堂で開催。
東洋文學研究会 東洋文学科、大西徹君を中心として、作詩、支那語研究、古文の論説により東洋文学研究の目的で新しく学研部の一つとして新発足した。
英語研究会 全日本英語弁論大会を前にして、常に研究活動が続けているが、関西各大学との交歓討論会の主なものは左の通り。
 5月15日 同志社大学との交歓討論会、於同 大
 5月29日 大阪女子大学との交歓討論会、於大阪女子大
 5月30日 関西地区最終予選、討論会 於神戸大

ホッケー部 関西学生ホッケー春季リーグ最終日は六日藤井寺で行われたが、一頭地を抜いた実力を持つ本学は当日大市大を破り全勝優勝を遂げた。
 関大 15 (12 | 1) 2 大市大 3 (1 | 1)



校友バツヂ

校 友

千里山昭八会

三月十七日(水)午後五時半より平野町やを政に於て第二十六回例会を開催、幹事より母校の近況、予算面より見たる母校二十九年度の構想等について説明、やがて来るべき七十周年記念日の盛観を心に描きつゝ母校將來への發展を祈つた。更に拡充資金の募集には寸暇を割いて応募勧誘することを甲合せた。

京都から西村、木下両氏出席し一入と懐旧談に熱が入り、午後九時散会した。

当日の出席者

- 西村 義雄 長沢 健二 浦野健二郎
- 斎藤 正興 美吉寛之祐 賀本 敏英
- 木下 忠夫 中江 賢 大島 武夫
- 野田 文雄 吉田 一郎 竹波 辰雄
- 広田 憲信 中家 利国 平井 三朗

五月廿二日(土)午後五時より有馬橋泉莊にて第二十七回例会を開催、大阪組は梅田から有馬行き直通バスにて新緑滴たる誠に清々しい有馬路を揺られ揺られ一時間半、山峽の湯の町有馬に着く。当日に至つて巴むなき支障のために欠席した者五、六名、予定より出席者の数は和氣霽々たる楽しい集いであつた。

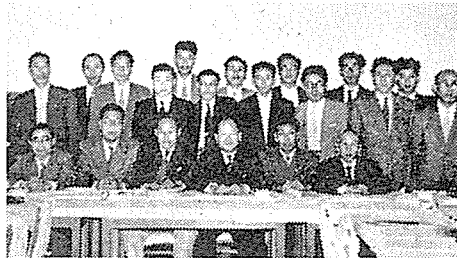
当日の出席者

- 浦野健二郎 住江 敏夫 斎藤 正興
- 広田 憲信 大島 武夫 野田 文雄
- 中江 賢 多賀 恒一 百石 義雄
- 瀧郷 清市 宮地 正一 平井 三朗

徳島支部春季總會

徳島支部春季總會は五月二十三日午後二時から徳島市駅前グランド・テニスポールから矢野常務監事を迎へ校友二十二人出席の下に和氣霽々裡に開催。

先づ三宅支部長の挨拶、矢野常務監事の千里山、天六学舎の拡充計画、大学の將來の抱負などについての説明があつた。後議事に移り、徳島支部の発展を約し、次いで役員改選左記の通り決定有意義に總會の幕を閉じた。



徳島支部

- 役員 顧問 中田 豊雄 梅田 鶴吉
- 支部長 三宅 二郎
- 副支部長 小寺善二郎 黒田 健勝
- 齋藤 正秀

幹事長 有本 直弘

- 支部事務所 徳島市大道一丁目
- 電話(徳島) 九一九番
- 三三〇三番

出席者

- 三宅 二郎 小寺善二郎 齋藤 正美
- 有本 直弘 林 豊 幸田 秀昭 塚本繁次郎
- 沢 和一 小川 蒙 倉橋 巖
- 林 辰雄 千草 信男
- 中田 豊雄 新居 修 溝淵 保夫
- 藤下 益治 福本 憲一 後藤 表典
- 笹賀 和 増原 市次
- 朝田 大

神戸関大俱樂部春季總會

神戸関大俱樂部は五月二十九日午後三時より神戸商工会議所にて今春初めてたく学窓を巣立つた多数の新入会員を迎えて華々しく春季總會を開催、参会者百四十一名の多きに達し盛会であつた。

先づ向井常務理事の開会の辭に次いで山崎理事長より新入会員に対する歓迎及本總會開催の趣旨に就いて挨拶新入会員を代表して星野直身君より答辭があり、続いて久井専務理事より大学の近況並創立七十周年記念拡充資金の募集現況を数字を並べて詳細に説明后、

山崎理事長より当俱樂部の会員数は約二千名を算するにも拘らず僅か二十一名の役員では少いので若干名の追加増員をとの動議あり満場異議なく賛同選出方法に就ては理事長指名に依る片山菊治郎、橋本太一、中江秀実の三氏を詮衡委員に委嘱し詮衡の結果、卒業年度及職域等を

考慮して左記の通り新理事十一名新監事二名が追加増員せられた。

- 理事 安長 義夫 中藤幸太郎
- 細井 三郎 山本 鎮郎 渡辺 道男
- 貴神 喜作 井沢 国雄 西光 健次
- 箱根 三郎 黒田 一男 森山 滋男
- 監事 森 知巳 尾形 昌正

更に矢口孝次郎、堀正人両教授より夫々ヨーロッパ留学の興味溢るゝ帰国講演を傾聴し一同に深い感銘を与えた。午後六時閉会。

尚当日の出席者左の通り(順不同、敬称略)

- 大学側 久井専務理事 矢口教授 堀 教授
- 秋山校友課員 勢井校友課員
- 俱樂部側 山崎 敬義 安長 義夫 水本 信夫
- 水本千代松 星野 正身 橋本 太一
- 向井 裕亮 片山菊治郎 藤波 方
- 渡辺 道男 貴神 喜作 島村猪之助
- 箱根 三郎 赤羽 正夫 立花 成英
- 石上 隆 榎本 昭 佐野 貞澄
- 星野 直身 生田 喜之 吉田 真澄
- 福垣 直三 中林 勉 倉本 浩市
- 内海 淳三 岡田芳太郎 今泉 俊彦
- 宮内 孝 神垣 守 室屋 賢
- 奥村 孝 松本 包文 松岡 行雄
- 向井 正浩 植月 弘志 矢野忠美男
- 久次米英明 角田好太郎 多賀 恒一
- 日名田清三 真田 夏男 藤沢 正巳
- 川崎 博 安田 敏穂 藤田 勝
- 野田 俊吉 井置 武嘉 木村 喜作
- 福田 昭彦 塚原 茂 永井巳善夫
- 田中 明誠 藤井 昇 杉本 豊信
- 藤田 剛正 白生 和生 太田 実
- 安浦 義文 青山 政雄 垂井 圭司
- 浅利 修 菅田 高輝 河野 博
- 井上 修 岩田 宗夫 寺本 広吉
- 内田 吉衛 瀧郷 清市 森山 滋雄
- 達川 元一 瀧郷 清市 森山 滋雄
- 岸本嘉代江 江見 節男 浅野栄八郎
- 小川 立朝 田村 光嘉 山本 鎮郎
- 植田 健 金 台三 和田 浩吉

- 大野 幸雄 高見 彦雄 中江 秀実
 - 杉村 雄邦 土田 武電 田中新次郎
 - 上東 秀雄 園分 和夫 中河 通
 - 小林 信義 木村 博次 大塚 俊勝
 - 齋井孝一郎 東矢 武郎 池田 明
 - 真砂 義和 藤田 明 加 章
 - 久保 尚行 福本 一步 今村 三郎
 - 下条小野右衛門 三浦一繁 牧野秀夫
 - 水村小太郎 鎌田 務 片山 勝
 - 木田 博 日置 正邦 西田 八郎
 - 齋木 一夫 久置 敏巳 三輪寛治郎
 - 森 又雄 猪熊 和男 森藤 定治
 - 木下 照夫 木村陽二郎 上田 隆夫
 - 武中 良夫 西村治三郎 長谷川行弘
 - 井上 清秀 内橋 忠雄 芝 和彦
 - 二階堂千之 今井 和幸 芹生 龍三
 - 清水 怜 森 茂 秋山 定
 - 鷺谷 泰造 大西 常夫 宮田 重治
- 以上 百四十一名

川邊支部總會

兵庫県川辺支部春季総会は五月五日の佳日、新緑の宝塚宝楽橋北詰（島屋温泉旅館）に於て岩崎学長の再任歓迎会を兼ね開催。

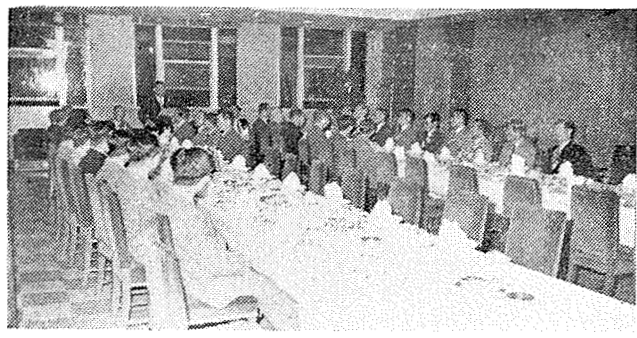
当日は母校七十周年記念拡充資金の募集賛助について協力する様申し合はせ、四月号学報既載の通り第一回分の寄附申込をした。

- 出席者(二十八名)
- 岩崎学長 白川理事長 久井専務理事
 - 深川 実 滝井 義男 池田幸太郎
 - 池方 司郎 磯野 充賀 上杉 文夫
 - 後呂 邦輔 金岡 謙 岸本 到
 - 木下 高臣 倉橋 貞一 小林 英次
 - 甲川 巖 甲川 彰彦 佐野 榮二
 - 白井 誠 杉本 信雄 田口 正春
 - 田中万佐治 谷 義雄 谷口 隆佳

東京支部總會

五月廿六日（水）白川理事長、安井校友課長を迎え、東京支部では銀座東紙、バルブ会館内、グリルサロン「ばびよつと」に於て、午後六時より、校友山地利仁君碑文谷署長、栄転の祝賀を兼ね、役員任期満了に伴う改選の総会を開催、支

- 富川竹治郎 内藤 盛雄 野原 稔
- 蓮井 敏雄 福井 進 福本 稔
- 福竹 益男 藤原 龍太 松崎 友一
- 森川 三男 安井 章吾 安田 信一
- 吉永 登 横田 照男



東京支部總會

部会員廿七名の参集があつて盛会を極めた。先づ福田支部長より開会の辞及経過報告があり、香西副支部長の会計報告の後、役員改選は十名の詮衡委員に一任、決定役員氏名左の通り

- 顧問 福田 繁芳 平岡 啓道
- 支部長 中山 幸市
- 副支部長 香西 政一 福尾 永治

次いで校友本田捨松氏より寄贈になる未発表映画米軍製作総天然色フィルム「硫黄島上陸作戦」及「サイパンの激戦」の一時間に亘る実戦記録の上映があり、午後十時廿分各自校友章をつけ和気霽々の裡に散会した。

尙当日の出席者左の通り

- 大学側
- 白川 朋吉 安井 章吾
- 支部側
- 小林 稔 香西 政一 大村 澄男
 - 島 秀映 甲斐 亀夫 草部 一雄
 - 金井 正夫 渡田 界一 渡辺 義尚
 - 古川 憲夫 堀 義宏 岩崎 礼介
 - 平岡 啓道 森本 定雄 丸物 彰
 - 梅田 茂 岸副 且 芦田 慶三
 - 伊藤 茂 中村 簡吉 宗光 三平
 - 安田日出男 下出 宏造 鈴木 康之
 - 大曾 一巳 三枝 芳郎 松浦 弘
 - 堀孝二郎 中山 幸市 福尾 永治

- 蓮藤 敏雄 山地 仁 山口栄治郎
- 酒井 実雄 本田 裕松 福田 繁芳
- 田中 正三 (廿七名)

一五会総会は去る三月二十七日（土）浪速荘に於て開催。当日の出席者左記の通り

- 岩岸巖 丹羽英夫 森崎 義寛 角田好太郎
- 米田治三 紙正義 中村泰吉 上田虎野太 所蔵



繁 高田貞左右 谷口隆佳 竹田繁七 坪田吾一 神保敬男

関甲俱樂部總會

関甲俱樂部の春季総会は、大阪駅前「北京」に於て開催、当日は旧師桂忠雄、菊池金次郎、小泉幸治、角田文雄、戸松健吉の五氏を初め出席者は一〇九名に及ぶ新記録であつた。先づ西村常務理事開会の挨拶、浅野理事の会計報告があつた後三島理事より事業報告（現在会員の状況、前任道端師に対する

記念品の贈呈、故安達師の靈前に供花会葬の件、長田義一氏推薦校友の件、名簿の刊行、関西大学創立七十四周年記念紙幣発行案(依頼中の件等)が詳細に述べられた。

次いで白川理事長(西村監事代理)より、長田義一氏に対して推薦校友の証書を満場拍手の裡に授与せられ、これに対する同氏の謝辞があつたのち、出席の旧師が一人一人立つて感慨の深い挨拶を述べられた。かくて司会者(古市常務理事)より閉会のことばがあつて一大懇親会に移り、宴のなかばより会員有志の所見が続き、終宴の頃には歌声も賑やかであつたが、校歌の合唱と万歳の三唱を限りとして九時別れを惜みしながら散会した。

当日の出席者

浅野 清	浅野通之助	安宅 英吉
朝石 昭三	井上 龍三	今井 忠勝
池北 与吉	猪師 猛	石井 秀樹
石川 正	井上 三郎	磯島 得一
岩田 利男	井上 馨	印藤善三郎
白井 静雄	上村 文吾	上田 清
梅北隆八主	小野 真一	小畑 源治
大沼 正利	大西 邦夫	大芝 陽次
尾向 裕次	桂 忠雄	菊池金次郎
喜島秀太郎	貴田 博	国田 栄一
久保三晴夫	小泉 幸治	近藤 幸一
小森 正男	郡 栄作	河野 清
斎藤春太郎	真田 忠	高津 一雄
篠原 昭三	杉本 晴信	高橋 節治
玉井栄太郎	竹川 喜郎	田中 久雄
高谷 幸吉	巽 正男	田中 清隆
辰巳 芳雄	高井 武義	武田 徳造
高田慎之輔	角田 文雄	辻 日出男
寺井 五郎	寺岡 正行	戸松 健吉

東耕 龍男	中巻 弘	中西 貞
中山 政吉	長山 義一	中谷芳之助
中尾 善宣	仲 義信	中尾 英一
仲本 正毅	長田 宣之	長田喜久雄
西村治三郎	西田 誠宏	西川彦太郎
野村源三郎	野村 修三	長谷川静平
橋本善三郎	橋爪 亮一	羽田 英三
橋本栄太郎	浜名徳太郎	浜谷 晴茂
久井 忠雄	福島 脩三	吉市 実
増田富三郎	前田 末吉	松本喜代松
前川 泰男	松井 康治	松田 喜造
孫田 茂雄	三島 律夫	富井 春吉
宮地 司	南 脩	村田 保春
森谷徳二	森本 与一	山口 重治
山田 繁雄	山田初太郎	山本 紀男
山本吉之亮	山本 富和	吉田 八郎
吉岡 芳男	吉富 二郎	吉田 直達
和崎 弁三		以上一〇九名

昭和二十九年五月十五日発行

関西大学學報 第二六九號

大阪府大淀区長柄中通二丁目二番地
編集兼 久 井 忠 雄
発行人 久 井 忠 雄

大阪府北區川崎町三八

印刷所 株式会社 ナニワ印刷所
電話堀川(七三〇二番)
三一九三番

大阪府大淀区長柄中通二丁目
発行所 関西大学學報局

電話堀川(35)一七五六番
振替大阪二六七七二番

一年誌代実費三〇〇円(送料共)

史料に就いて御願ひ

目下編纂中の関西大学七十年史の資料として左記の如きものを御所蔵の方々は何卒御貸与下され、編纂に御協力下さるやう御願ひ致します。拝借致しました品々は大切に謄写撮影の後御返却申上します。

記

- 一、井上操、手塚太郎、小倉久、志方銀、鶴守義、淡川忠二郎(但し同翁傳刊本当方にある)水上長次郎、堀田正忠等諸氏の書翰、伝記、写真色紙短冊等、特に関大関係のものがあれば一層可。
- 一、昭和九年四月二十七日号(第四十九号)以前の関西大学新聞。(創刊号一四十八号)
- 一、関大専門部、関甲等を含む出身戦死者の書翰。関大時代の生活に言及せるものならば一層可。
- 一、法學志林第四十九卷第一号
- 一、石田文四郎著、明治時代文化記録集成
- 一、同 右 著、明治大事件史
- 一、自由党大阪国事犯事件(大井憲太郎等の朝鮮独立党援助事件)に関する根本史料、文獻
- 一、明治十年代より二十年代初期の大阪法曹界の事情を明かにしたる(文獻大阪辯護士会史は当方にある)その史料となるごときものを求む)
- 一、明治四十四年以前の卒業アルバム
- 一、福島時代の学生生活に関する写真
- 一、山岡順太郎、垂水善太郎、柿崎欽吾、土居通夫等諸氏の書翰その他著録された文章にして関大に言及せるもの
- 一、本学学生並に校友の私に発刊せる文芸同人雜誌
- 一、昭和二年事件顛末書
- 一、明治二十年代本学教職員辞令書
- 一、明治二十三年代の大阪市街々頭風景写真、江戸堀、淡路町、京町堀、河内町、福島附近などあれば一層可
- 一、千里山附近の風光を詠じたる詩歌俳句の文芸的価値すぐれたるもの。
- 一、関大選手の全国的スポーツ大会に優勝したる時の写真、その時の記録国際的大会と世界的記録に関する場合の写真。
- 一、ポアンナードと司法省法学校に関する根本史料

昭和二十九年五月三十日

吹田市千里山

関西大学大学院ホール内

関西大学七十年史編纂室

感謝録

別項記載の通り、母校創立七十周年記念拡充資金寄附を募集致しました処、その趣旨に御賛同下さいまして陸続左記の通り御寄附をいたゞきました。五月三十日迄に拝受しました御寄附者の芳名を爰に録し、謹んで感謝の意を表します

昭和二十九年五月三十日

学校法人 關西大學

關西大學七十周年記念

拡充資金寄附者芳名(五)

昭和二十九年五月三十日現在(順序不同、敬称略)

金貳百貳拾四万九千七百円也

教育後援会(才一五回合計額)

第五回分 内 訳

金五万円也	赤尾 俊信	金貳千円也	西村駒太郎
金參万円也	北浦 正	金貳千円也	永原 元松
金壹万円也	後藤 恒雄	金壹千円也	宮浦 利雄
金壹万円也	長谷川玉次	金壹千円也	森田 熙
金壹万円也	別所亀四郎	金壹千円也	河合 徳三
金壹万円也	高久 直信	金壹千円也	新沼 邦和
金五千元也	鎌農 勝馬	金壹千円也	辰巳 捨松
金五千元也	大西藤四郎	金壹千円也	鎌田久之助
金參千元也	吉田 秀映	金壹千円也	奥本 豊
金參千元也	脇山 光子	金壹千円也	三浦八重治
金參千元也	八木 実	金壹千円也	山口 俊一
金參千元也	岡 利裕	金壹千円也	津川 広一
金參千元也	三井源一郎	金壹千円也	村井 政吉
金參千元也	北野 隆造	金壹千円也	石田 永二
金參千元也	天谷 定吉	金壹千円也	千葉 重男
金貳千元也	蓮井 信次	金壹千円也	元村佐次郎
金貳千元也	安部 誠吉	金壹千円也	渡辺 一郎
金貳千元也	松田 政二	金壹千円也	森本 平良
金貳千元也	峯村 沢一	金壹千円也	三谷 喜一
		金壹千円也	楠戸 秋夫
		金壹千円也	田村 格治

金百九拾八万四千円也(才一二回合計額)

第二回分 内 訳

金壹万五千元也	三島 律夫(大11専商)	金貳万円也	寺沢卯三郎
金壹万円也	富永 竹夫(大2専法)	金壹万円也	大植惣之助
金壹万円也	丸山喜三造(昭7大法)	金壹万円也	渡部師治郎
金壹万円也	江里口春志(昭9大法)	金壹万円也	大野 庄一
金壹万円也	柳田 榮次(昭9大法)	金壹万円也	味村 虎市
金壹万円也	神吉 等(昭11専二商)	金壹万円也	戸龍精太郎
金參千元也	小林 茂就(大8専商)	金壹万円也	山脇 修造
金參千元也	前田 常好(大8専法)	金壹万円也	山中仁兵衛
金貳千元也	前田 敏雄(昭16専二法)	金壹千円也	林 サダ
金貳千元也	福村 俊雄(昭17大法)	金壹千円也	日比生麟太
金壹千円也	中沢 俊雄(昭17大法)	金壹千円也	西川孫太郎
金百五拾八万四千円也	大学教育職員(才一二回合計額)		
第二回分 内 訳			
金五万円也	木村 健助	金貳万円也	三谷 友吉
金五万円也	坂橋 菊松	金貳万円也	松原 藤由
金五万円也	西本 寛一	金貳万円也	今西庄次郎
金五万円也	佐伯 三郎(才一二回合計額)	金貳万円也	河村 信一
金參万円也	中川庸太郎	金貳万円也	角田 文雄
金參万円也	矢口孝次郎	金貳万円也	山口 辰雄
金參万円也	河村 宜介	金壹万五千元也	加藤由次郎
金參万円也	和田 豊二	金壹万五千元也	鏑方 貞亮
金貳万円也	池垣定太郎	金壹万五千元也	宇田 米夫
金貳万円也	榎田 誉	金壹万五千元也	入江 深
金貳万円也	沢村 栄治	金壹万貳千元也	橋田 慶藏
		金壹万貳千元也	富山 忠三
		金壹万円也	岩本 慧
		金壹万円也	高木 秀玄
		金壹万円也	植原 四郎
		金壹万円也	杉原 郁太
		金壹万円也	植野 紀男
		金壹万円也	河野 俊雄
		金壹万円也	賀屋 稔
		金壹万円也	安田 信一
		金壹万円也	石尾 芳久
		金八千元也	堀 堅士
		金七千元也	本浪 章市
		金七千元也	上林 英一
		金七千元也	原 英次
		金七千元也	星野 信夫
		金六千元也	荒井 政治
		金五千元也	東井 正美
		金五千元也	市原 亮平
		金五千元也	柏尾 昌哉
		金五千元也	河合 信雄
		金五千元也	酒井 文雄
		金五千円也	高本 昇
		金五千円也	有田 稔
		金五千円也	津川 正幸
		金貳千元也	末政 芳信
		金貳千元也	高堂 俊彌
		金貳千元也	清水 宗一

金九拾八万七千四百円也 (才一・二回合計額) 事務職員

第二回分 内 訳

金壹万五千元也 大山 綱憲(才一・二回合計額)

金五千元也 繁本 泰明

金四千元也 上田 実

金四千元也 田中 豊子

金叁千円也 高橋 知子

金貳千円也 山本 照夫

金貳千円也 長本幸太郎

金貳千円也 滝本 甚一

金壹千五百円也 寺井 伸子

金壹千五百円也 石川 峰雄

金壹千五百円也 木村たつ子

金壹千円也 山口 敏郎

金壹千円也 藤島 淑

金壹千円也 江原 敏子

金六拾叁万五百円也 (才一・二回合計額) 昭六会

第五回分 内 訳

金叁万円也 佐伯 三郎(才一・二回合計額)

金貳万円也 拜野 昇

金壹千円也 井口 一

金壹千円也 埴原 市次

金四拾四万九千円也 (才一・二回合計額) 十期会

第五回分 内 訳

金貳万円也 榎本金次郎

金壹万円也 高久 直信

金壹千円也 渡野 時男

金壹千円也 小山 修

金貳拾貳万三千円也 (才一・二・三回合計額) 神戶支部

第三回分 内 訳

金壹万円也 角田好太郎(才一・二回合計額)

金貳千円也 瀬郷 清市(才一・二回合計額)

金貳拾万円也 (才一・二回合計額) 昭三会

内 訳

金拾万円也 松広 壽衛

金叁万円也 尾崎 信夫

金貳万円也 小寺小市郎

金貳万円也 未下 虎一

金壹万円也 南 清

金壹万円也 丸木利喜道

金拾叁万五千元也 伊藤 太平

金拾貳万三千元也 丸善株式会社

内 訳

金参万円也 長田 義一(推 薦)

金貳万円也 山本 藤藏(才一・二回合計額)

金壹万円也 北川 保(才一・二回合計額)

金壹万円也 小林 順応(才一・二回合計額)

金壹万円也 園分 吉広(才一・二回合計額)

金壹万円也 郡 榮作(才一・二回合計額)

金五千元也 中村敏治郎(才一・二回合計額)

金四千元也 山本 富和(才一・二回合計額)

金叁千円也 岩田 利男(才一・二回合計額)

金叁千円也 巽 正男(才一・二回合計額)

金叁千円也 小枝 康益(才一・二回合計額)

金叁千円也 西川 静治(才一・二回合計額)

金叁千円也 桑原 安正(才一・二回合計額)

金叁千円也 小栗崎 邦夫(才一・二回合計額)

金貳千円也 山本 義雄(才一・二回合計額)

金貳千円也 広谷 七郎(才一・二回合計額)

金拾壹万六千元也 東京支部

内 訳

金五万五千元也 中山 幸市(才一・二回合計額)

金五万五千元也 宿田 繁芳(才一・二回合計額)

金壹万五千元也 平岡 啓道(才一・二回合計額)

金壹千円也 下出 宏造(才一・二回合計額)

金壹千円也 鈴木 康之(才一・二回合計額)

金拾壹万壹千元也 青 泉社

金拾壹万円也 昭四 斯文会

内 訳

金五千元也 米満 榮三

金四万七千五百円也 堀畑 軒一(才一・二回合計額)

金参万貳千円也 旭 屋書店

内 訳

金壹千円也 徳島支部

金壹万五千元也 三宅 二郎(才一・二回合計額)

金壹万五千元也 正美(昭13専一商)

金五千元也 中田 豊雄(昭43専一法)

金貳千円也 幸田 秀明(昭10大法)

金貳千円也 小川 豪(昭10専二法)

金壹千円也 倉橋 巖二(昭3大法)

金壹千円也 増原 市次(昭6大法)

金壹千円也 林 豊(昭9専一商)

金壹千円也 中村 定二

金壹万五千元也 福島支部

金壹万五千元也 山田 俊治(才一・二回合計額)

金壹万五千元也 福島支部

金壹万五千元也 鳥野繁太郎(昭23専一法)

金壹万五千元也 鳥居昇二郎(昭23専一法)

金壹万五千元也 匿名氏(昭23専一法)

金壹万五千元也 松本 実道(昭3専一法)

金壹万五千元也 福原 武一郎(昭23専一法)

金壹万五千元也 森 一郎(昭23専一法)

金壹万五千元也 岡沢 卓郎(昭8大商)

金壹万五千元也 大崎 次郎(昭14大法)

金壹万五千元也 株式会社才一社書店

金壹万五千元也 天野 誠一(昭22大法)

金壹万五千元也 農林省大阪食糧事務所

金壹万五千元也 西浦 義一(昭10専二法)

金壹万五千元也 村西 修(昭27専一商)

金壹万五千元也 芦田 慶三(昭26専二商)

金壹万五千元也 三宅 八重篤(昭23専一法)

金壹万五千元也 近鉄関大会

内 訳

金壹千円也 中沢 俊雄(昭17大法)

金壹千円也 増田 正一(昭19大法)

金壹千円也 西村 一幸(昭21大法)

金壹千円也 福田 敏夫(昭12大法)

金壹千円也 木島 倫三(昭5専一商)

金壹千円也 木島 弘晴(昭5専一商)

金壹千円也 中井 英男(昭13専二商)

金壹千円也 八木 信三(昭2専一法)

寄附金分類集計表 昭和二十九年五月三十日現在 申 込

Table with columns: 篤志家, 関係者, 地方支部, 同業会, 同好会, 個人, 教育後援会, 学校法人役員, 評議員, 教育員, 幼稚園, 職員, 事務員, 合計, 内重複額, 差引合計, 未収納額. Rows show counts and amounts for various categories.

關西大學擴充資金募集要項

- 一、予定金額 金五千万円
- 二、一、口 金壹千円以上
- 三、御送金は銀行振込用紙を以て全国の左記關西大學取引銀行本・支店へ、或は振替貯金（大阪壹貳八七五番）又は御便利な方法で關西大學會計課宛御願ひ致し
ます。
- 四、神戸銀行梅田支店・三和銀行天六支店・住友銀行天六支店・住友信託銀行本店
泉州銀行大阪支店・第一銀行梅田支店・大和銀行天六支店・帝國銀行天六支店
・日本勸業銀行梅田支店・安田信託銀行大阪支店（送金先銀行五十音順）
- 五、〆切期日は一応昭和二十九年十月七日と予定致します。
- 六、寄附者の氏名は、關西大學學報誌上に順次発表致します。

關西大學擴充資金募集は大藏大臣の承認した指定寄附金であります

今回大藏大臣より左記等の通り、本學擴充資金募集の寄附金について、法人税法第九條第三項但書の規定に該当する寄附金としての承認を受けました。普通の寄附金であると、法人税法第九條第三項本文によつて、法定限度を超過した場合、その超過額はその法人の損金に算入されないから、法人所得に加算の上、課税を受けることとなるのですが、本學の募集する寄附金は法人税法第九條第三項但書の「指定寄附金」の承認を受けているので、寄附者である会社その他の法人は、その寄附金については金額の如何に拘らず、これを損金として認められますから税金の対象にはならないのです。この指定寄附金は昭和二十五年大藏省告示第五一〇号第三号昭和二十六年大藏省告示第五五二号に該当するもので左の通りになっています。

（寫） 藏稅第一八五〇号

昭和二十八年十月八日

學校法人 關西大學
理事長 白川 朋吉殿

大藏大臣 小笠原三九郎

昭和二十八年九月二十二日附で願出があつた寄附金については法人税法第九條第三項但書の規定に該当する寄附金として承認する。

「學校教育法第一條に規定する大學、高等學校、中學校又は小學校の敷地、校舍その他附屬設備を施設する為に學校法人又は民法による財團法人に對してなす寄附でこれ等の法人が寄附金の募集について大藏大臣の承認を受けた日から一年以内に支出されたものゝ金額」

近頃各種の寄附金募集が多いのですが、折角好意ある御寄附をした会社はこれを損金として経理処理しているのを、稅務署では損金否認して利益加算し課税を受ける例は多いのですが、本學のは前述の如く大藏大臣の承認した「指定寄附金」でありますから、損金を否認される心配はありません。何うぞこの点、特に御理解を賜りとう存じます。

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和二十九年五月十五日發行（毎月一回十五日發行）

關西大學學報 第二六九號 五月號

新聞

放送廣告

60余年の歴史と経験を持つ当社をあらゆる広告に御利用下さい

定期刊行物

廣告年鑑

内容—新聞誌・雜誌・廣告主實
業—新刊誌・廣告・廣告主實
業—新刊誌・廣告・廣告主實
業—新刊誌・廣告・廣告主實

廣告論叢

廣告代理業

萬年社

株式会社

大阪市東區高麗橋五丁目・電話（土佐堀）693—696・支店—東京・京都・神戸・名古屋

關西大學七十周年記念

拡充資金寄附者芳名 (一)(二)(三)(四)

昭和廿九年四月三十日現在

一、篤志家の部

金壹封	岸田 幸雄 (兵隊學知事 校友會支部 神戸支部扱)	金參万円也	米田 三治
金百万円也	久大紡績株式会社	金貳万円也	富山 俊夫
金五拾万円也	匿名氏	金貳万円也	牧野 武三
金拾万円也	吉本興業株式会社	金貳万円也	東田 繁雄
金拾万円也	石原勝太郎	金貳万円也	稲葉実之助
金拾万円也	匿名氏	金壹万円也	白井 利久
金拾万円也	匿名氏	金壹万円也	匿名氏
金拾万円也	匿名氏	金壹万円也	杉森 弘
金拾万円也	匿名氏	金壹万円也	吉崎 照夫
金拾万円也	匿名氏	金壹万円也	三ツ橋邦治郎
金拾万円也	匿名氏	金壹万円也	松岡 一美
金拾万円也	匿名氏	金壹万円也	中村 武彦
金拾万円也	匿名氏	金壹万円也	今西 某
金拾万円也	匿名氏	金壹万円也	井上為之助
金拾万円也	匿名氏	金壹万円也	岡野 弘毅
金拾万円也	匿名氏	金壹万円也	不破晴三郎
金拾万円也	匿名氏	金壹万円也	繩本清太郎
金拾万円也	匿名氏	金貳千円也	北京樓 朱相奎
金拾万円也	匿名氏	金貳千円也	黒田 一男
金拾万円也	匿名氏	金貳千円也	鳥居 觀之
金拾万円也	匿名氏	金貳千円也	大森松太郎
金拾万円也	匿名氏	金貳千円也	中辻 卯吉

二、関係業者の部

金壹千円也	中江 秀実	金拾八万円也	久井 忠雄 (才一・二回合計額)
金壹千円也	泓川 義文	金拾万円也	堀畑 町一
計 参百八拾九万七千円也		金貳万円也	長尾 昇
		金貳万円也	嘉根 勘治
		金貳万円也	寄藤 善三
		金貳万円也	古田 龍雄
		金壹万壹千五百円也	有賀司郎 (才一・二回合計額)
		金壹拾万円也	堀畑 町一
		金壹拾万円也	鳴尾芳太郎
		金壹拾万円也	白川 惠宜
		金壹拾万円也	佐伯 三郎 (才一回分)
		金壹拾万円也	寺田 伴嗣
		金壹拾万円也	楠井 文雄
		金壹拾万円也	神木彦次郎
		金壹拾万円也	藤井 兵藏
		金壹拾万円也	今井 憲夫
		金壹拾万円也	三谷 久男
		金壹拾万円也	岡部 俊吉
		金壹拾万円也	福原菊次郎
		金壹拾万円也	門田 文三
		金壹拾万円也	浅本 俊一
		金壹拾万円也	喜多 由造
		金壹拾万円也	朝倉 茂直
		金壹拾万円也	川上 末一
		金壹拾万円也	中村 武一郎
		金壹拾万円也	中谷 勝
		金壹拾万円也	吉川 敬一
		金壹拾万円也	吉川 俊彦
		金壹拾万円也	上野 康夫
		金壹拾万円也	日下 康夫
		金壹拾万円也	羽生 忠
		金壹拾万円也	清水 安義
		金壹拾万円也	吉橋 鐸美
		金壹拾万円也	西口 檀四郎
		金壹拾万円也	川越 智博
		金壹拾万円也	中辻 淳

三、同期会の部

計 六百六拾八万五千円也

金五千元也 青野 昌平
 金五千元也 奥川 武郎
 金五千元也 矢野 三郎
 金五千元也 川西 武治
 金五千元也 入江 寅一
 金五千元也 梶田 順造
 金五千元也 後藤 幸重
 金五千元也 笠井 信夫

金拾九万円也 昭七会 (才一回分)

金四拾壹万五千元也 十期会 (才一回分)

内 訳
 金拾万円也 野間 秀泉
 金七万円也 矢野 文雄
 金貳万円也 福岡 彰郎
 金貳万円也 東稔 頼義
 金壹万円也 江里口 春志
 金壹万円也 河内 兼三
 金壹万円也 田中 壽藏
 金壹万円也 竹沢 喜代治
 金壹万円也 塚本 義昭
 金壹万円也 長谷川 清一
 金壹万円也 松谷 連哉
 金壹万円也 森下 善雄
 金壹万円也 柳田 榮次
 金壹万円也 山中 輝司
 金壹万円也 永井 芳一
 金壹万円也 河合 中
 金壹万円也 北川 喜八郎
 金壹万円也 森 杵次
 金壹万円也 中山 清治
 金壹万円也 千原 蔵
 金壹万円也 川澄 秋一
 金五千元也 荻野 武男
 金五千元也 糸田 信勝
 金五千元也 白柳 丈太郎
 金五千元也 戸田 清一
 金五千元也 菅島 榮

内 訳
 金参万円也 池田 信之助
 金貳万五千元也 神屋 敷民藏
 金壹万五千元也 安井 章吾
 金壹万五千元也 和田 傳三
 金壹万五千元也 川野 文也

金七万四千元也 三七会 (才一回分)

内 訳
 金貳万円也 内藤 正剛
 金貳万円也 村尾 静明
 金壹万円也 深川 重義
 金壹万円也 兼松 謙太郎
 金壹万円也 豊岡 正芳
 金壹万円也 上田 実
 金壹千円也 田中 喜藏
 金壹千円也 赤坂 惠龍
 金壹千円也 原田 市之進
 金六万円也 四三会 (才一回分)

内 訳
 金参万円也 原田 鹿太郎
 金貳万円也 下条 小野右衛門
 金壹万円也 滝川 堯

四、校友会地方支部の部
 金壹百九拾壹万参千円也 大阪支部

内 訳 (才一回分)
 金貳拾万円也 白川 朋吉
 金拾八万円也 久井 忠雄
 金拾万円也 岩崎 卯一
 金拾万円也 三好 万次
 金七万円也 矢野 文雄
 金五万円也 阿部 甚吉
 金五万円也 宇佐美 正祐
 金五万円也 大石 雄一郎
 金五万円也 榎本 信雄
 金五万円也 木村 健助
 金五万円也 武田 藏之助
 金五万円也 中務 平吉
 金五万円也 長柄 金吾
 金五万円也 西尾 尊太郎
 金五万円也 西村 治三郎
 金五万円也 西本 寛一
 金五万円也 春原 源太郎
 金五万円也 宮島 綱男
 金五万円也 森川 太郎
 金五万円也 森川 忠雄
 金参万五千元也 前田 軍治
 金参万五千元也 池田 信之助
 金参万五千元也 尾崎 信夫
 金参万五千元也 神屋 敷民藏
 金参万五千元也 安井 章吾
 金貳万五千元也 大島 武夫
 金貳万五千元也 坂本 龍夫
 金貳万五千元也 下条 小野右衛門
 金貳万五千元也 岡 豊馬
 金貳万五千元也 田中 一郎
 金貳万五千元也 多賀谷 宏
 金貳万五千元也 平井 三朗
 金貳万五千元也 村尾 静明

金貳拾壹万貳千円也 神戸支部 (才一、二回合計額)
 金壹万五千元也 保井 剛一
 金壹万五千元也 今里 達雄
 金壹万五千元也 梅原 貞次郎
 金壹万五千元也 海野 円城
 金壹万五千元也 岡本 重治
 金壹万五千元也 織田 佐代治
 金壹万五千元也 中村 元茂
 金壹万五千元也 中村 公男
 金壹万五千元也 長谷川 清一
 金壹万五千元也 松本 芳太郎
 金壹万五千元也 森下 善雄
 金壹万五千元也 八木 万太郎
 金壹万五千元也 大和 英雄
 金壹万五千元也 和田 傳三
 金壹万五千元也 秋山 剛
 金壹万五千元也 四辻 詮
 金壹万五千元也 安藤 一郎
 金壹万五千元也 酒井 彦一
 金壹万五千元也 辻見 重行
 金壹万五千元也 野田 文雄
 金壹万五千元也 橋田 豊吉
 金壹万五千元也 山影 耕三
 金壹万五千元也 毛尾 泰三
 金壹万五千元也 鳥羽 源四郎
 金壹万五千元也 中村 敏雄
 金壹万五千元也 清藤 義夫
 金壹万五千元也 近藤 友房
 金壹万五千元也 吉村 種藏
 金壹万五千元也 町 四郎
 金壹万五千元也 金本 朝一
 金壹万五千元也 国塩 敏
 金壹万五千元也 吳 辰成
 金壹万五千元也 三木 甚太郎
 金壹万五千元也 石田 俊夫

内訳

金壹封也 岸田幸雄
 金參万也 原田廣太郎
 金壹万也 山崎敬義
 金壹万也 難波方
 金壹万也 橋本太一
 金壹万也 水本信夫
 金壹万也 森又雄
 金壹万也 土井義弘
 金壹万也 東耕龍男
 金壹万也 向井祐亮
 金七千也 安井榮三
 金五千也 岡田退一
 金五千也 岡田春治
 金五千也 山本代松
 金四千也 水本千代松
 金四千也 小谷正治
 金四千也 尾形旨正
 金參千也 片山勝
 金參千也 木内博
 金參千也 中藤幸太郎
 金參千也 西光健次
 金貳千也 田中純體
 金貳千也 渡辺道男
 金貳千也 赤列正夫
 金貳千也 片山菊次郎
 金貳千也 富信重夫
 金貳千也 吉田貞澄
 金貳千也 吉田正幸
 金貳千也 北京樓朱相奉
 金貳千也 黒田一男
 金貳千也 鳥居觀之
 金貳千也 大森松太郎
 金貳千也 中辻卯吉
 金貳千也 泓川義文
 金貳千也 中江秀実
 金貳千也 林義夫
 金貳千也 大野幸雄

金貳拾万四千円也

内訳
 金壹千円也 松岡行雄
 金壹千円也 高橋猪久次
 金壹千円也 島村猪之助
 金壹千円也 山本鎮郎
 金壹千円也 貴登喜作
 金壹千円也 赤井定隆
 金壹千円也 森本昭勝
 金壹千円也 榎本昭博
 金壹千円也 高原博
 金壹千円也 野田俊春
 金壹千円也 小林弘
 金壹千円也 氏林清
 金壹千円也 田村光嘉
 金壹千円也 小川立朝
 金壹千円也 瀨郷清市(才一回分)
 金壹千円也 井沢国雄
 川辺支部(才一回分)
 内訳
 金五万也 小林英次
 金参万也 深川実
 金貳万也 安井章吾
 金貳万也 吉永登
 金壹万也 滝井義男
 金壹万也 池田幸太郎
 金壹万也 深川重義
 金壹万也 北川喜八郎
 金壹万也 藤原龍太
 金壹万也 寺浦留三郎
 金参千也 甲川巖
 金参千也 磯野充賀
 金参千也 田口正春
 金参千也 倉橋貞一
 金参千也 武田謙
 金参千也 富川竹治郎
 金参千也 伴久平
 金参千也 井上久平
 金参千也 長田千里

金七万六千円也

内訳
 金参万也 関矢貫一郎
 金貳万也 米田恒二
 金壹万也 松井刚
 金壹万也 中石清一
 金五千也 坪田晋一
 金壹千也 石原孫市
 金壹万也 鳥取支部(才一回分)
 金壹万也 奥沢澄
 金五千也 和歌山支部(才一回分)
 金五千也 小堀欣二

五、職域会の部

金拾万円也

内訳
 金壹万五千也 近藤政士
 金壹万也 吉田三七雄
 金壹万也 石渡俊一
 金壹万也 松葉徳三郎
 金五千也 角谷市太郎
 金参千也 新海泰三
 金参千也 酒井鶴之助
 金参千也 原田正男
 金参千也 坂井佐佳士
 金貳千也 甘野秀太郎
 金貳千也 徳井悦郎
 金貳千也 沢本苞
 金貳千也 杉本富夫
 金貳千也 安達竹七
 金貳千也 近藤忠二
 金貳千也 山崎福太郎
 金参千也 成川政雄

内訳

金壹千円也 脇昭成
 金壹千円也 小寺和男
 金壹千円也 龍田弘
 金壹千円也 鎌田務
 金壹千円也 間田義一
 金壹千円也 佐藤正隆
 金壹千円也 八木覚雄
 金壹千円也 三浦初男
 金壹千円也 平井一郎
 金壹千円也 大橋秀夫
 金壹千円也 明石一郎
 金壹千円也 國府寺辰美
 金壹千円也 藤井鶴雄
 金壹千円也 宮本恒夫
 金壹千円也 宮原美雄
 金壹千円也 南村政春
 金壹千円也 木村佐喜夫
 金壹千円也 坂本三郎
 金壹千円也 今川美夫
 金壹千円也 森永政利
 金壹千円也 近藤晋一郎
 金壹千円也 弘末政彦
 金壹千円也 北本誠一
 金壹千円也 仲利博
 金壹千円也 平手龍之助
 金壹千円也 西川新造
 金壹千円也 神野宣信
 金壹千円也 野村正辰
 金壹千円也 西田市一
 兵庫県庁秀麗会(才一回分)
 六、校友の部
 (才一回分)
 金拾五万円也 五井重一(昭15専英)
 金五万円也 内田懋(昭2大商)
 金参万円也 松野幸吉(昭8大法)
 金貳万円也 田中藤作(大10専法)
 金壹万五千也 松村源次郎(昭2専法)
 金壹万参千五百也 中村定二(昭16専二法)
 (才一三回合計額)

金壹万円也	乾	義雄(大6專二法)	金壹千円也	高橋	文惠(昭8專二法)	金壹千円也	小西	公彦(昭22大法)
金壹万円也	郡	彪(昭28專二法)	金壹千円也	小田	静男(昭16監專二)	金壹千円也	植田	秀雄(昭19大法)
金壹万円也	平井	孝道(昭8大哲)	金壹千円也	原田市之進	明39法	金壹千円也	岸本	忠雄(大13專商)
金壹万円也	藤井	昭三(昭27院經)	金壹千円也	不動	健治(大9大商)	金壹千円也	麻野	正千代(昭28專二法)
金壹万円也	長沢	健一(昭8大經)	金壹千円也	村岡	道久(昭18專二法)	金壹千円也	山瀬	信一(昭28專二法)
金五千元也	泉	順一(昭26專二法)	金壹千円也	吉田	孝藏(昭4大法)	金壹千円也	田中	実夫(昭8專二法)
金五千元也	谷口	隆佳(大15大法)	金壹千円也	和久田二郎	茂樹(昭27專二法)	金壹千円也	中山	一義(昭13專二法)
金五千元也	藤高	豊作(昭37法)	金壹千円也	住岡	藤一(昭14專二法)	金壹千円也	平田	栄一郎(昭10專二法)
金五千元也	新井忠二郎	(昭19大法)	金壹千円也	楠田	寅三(昭5專法)	金壹千円也	栗木	原臣一(昭24大法)
金五千元也	大谷	松次(昭11大政)	金壹千円也	中尾	宜雄(昭12大經)	金壹千円也	尾上	圭一(昭16專二法)
金五千元也	神吉	等(昭11專二商)	金壹千円也	山脇	修(昭18專經)	金壹千円也	金谷	信助(昭27專二法)
金五千元也	木村	与吉(大8專法)	金壹千円也	森	正十之(昭26專一政)	金壹千円也	今仲	美巳(昭10專二法)
金五千元也	仁尾	常壽(昭4專法)	金壹千円也	後藤	正身(昭10大法)	金壹千円也	辻	茂(大13專二商)
金五千元也	宮光	永明(昭26專一法)	金壹千円也	原田美都枝	(昭26專二商)	金壹千円也	東田	憲二(大14大法)
金五千元也	遠藤	吉次(昭7專法)	金壹千円也	小倉喜八郎	(昭18專二商)	金壹千円也	植田	猶雄(昭16專二法)
金五千元也	川端	幸男(昭10大法)	金壹千円也	今仲三木雄	(昭16專二商)	金壹千円也	才野	木義雄(昭12專二法)
金五千元也	高砂恒三郎	(大13專法)	金壹千円也	平岡	巖(昭26專二商)	金壹千円也	青木	久雄(昭27專二法)
金五千元也	竹内	勳(大15專法)	金壹千円也	佐野	広治(大6專法)	金壹千円也	沢田	義之助(昭16專二商)
金五千元也	松嶋	章(昭21大經)	金壹千円也	藤田	啓夫(昭8專二法)	金壹千円也	中西	忠孝(昭6專二法)
金五千元也	岩見	実(昭14專二法)	金壹千円也	勝間五十吉	(昭14大法)	金壹千円也	服部	福次(昭6專二法)
金五千元也	村田俊一郎	(昭26專一商)	金壹千円也	大川原与一	(昭9專二法)	金壹千円也	下阪	文夫(昭28專一法)
金五千元也	峰本	勝義(昭25專一經)	金壹千円也	伊藤	保(昭17專二法)	金壹千円也	徳弘	駒雄(昭8大法)
金五千元也	安西	一郎(昭25專一團)	金壹千円也	延広	一明(昭11專一商)	金壹千円也	竹内	俊郎(昭24專二法)
金五千元也	片岡	公郎(昭17大政)	金壹千円也	吉本	房造(昭10專一法)	金壹千円也	山本	栄夫(昭14專二法)
金五千元也	中村彌之助	(昭13專一法)	金壹千円也	山下	勇次(昭16大政)	金壹千円也	辻原	弘(昭13專二法)
金五千元也	因野	昭(昭22專二商)	金壹千円也	工藤	正義(昭24大政)	金壹千円也	内海	利男(昭27專二法)
金五千元也	北村	学(昭14專二團)	金壹千円也	野村	功(昭14大商)	金壹千円也	早稻田	祐栄(昭27專二法)
金五千元也	石丸	豊(大9專商)	金壹千円也	河内	啓三(昭17大商)	金壹千円也	野原	保(昭11專商)
金五千元也	小島	龍夫(昭26專一團)	金壹千円也	鈴置	正雄(昭19大政)	金壹千円也	英和	喜照(昭23大經)
金五千元也	大越	務(昭37法)	金壹千円也	加藤	常雄(昭10專二商)	金壹千円也	大和	宗一(昭29專二法)
金五千元也	広橋	正一(昭26專一法)	金壹千円也	木原	俊夫(昭18專商)	金壹千円也	長尾	正弘(昭12大法)
金五千元也	深田	丈夫(昭14大法)	金壹千円也	山本	晴雄(昭27專一商)	金壹千円也	仲	実(昭12大法)
金五千元也	松川	孟一(大11專法)	金壹千円也	半那	賢三(昭17專一經)	金壹千円也	津川	鑑一(昭6專經)
金五千元也	和田	信藏(昭8大法)	金壹千円也	齋子田繁太郎	(昭5大法)	金壹千円也	野村	剛(昭26專二法)
金五千元也	高林	願(昭25專一法)	金壹千円也	松村	昌一(昭12專二商)	金壹千円也	野村	剛(昭26專二法)

七、教育後援会の部 (才一四回合計額)

金貳拾万円也	石井	壽一(会長)
金拾万円也	市岡	保徳(副会長)
金拾万円也	市岡	保徳(兼会計)
金拾万円也	片川徳三郎	(副会長)
金拾万円也	村上	千藏()
金五万円也	畑末彌市郎	(常任委員)
金五万円也	千本	行広()
金五万円也	田辺	信()
金五万円也	山下	石太郎()
金五万円也	深田	繁雄()
金五万円也	山本	敬憲()
金五万円也	井上	晴次(委員)
金五万円也	市口	政太郎()
金五万円也	馬場	静夫()
金五万円也	浜田	政一()
金五万円也	小崎	新一()
金五万円也	和田	政一()
金五万円也	河合	藤十郎()
金五万円也	吉府	喜四郎()
金五万円也	横出	敏雄()
金五万円也	徳田	武()
金五万円也	国崎	裕()
金五万円也	松岡	孝義()
金五万円也	藤森	賛樹()
金五万円也	小池	十太郎()
金五万円也	小西	彦四郎()
金五万円也	寺沢	貞次郎()
金五万円也	北野	一雄()
金五万円也	木村	秀吉()
金五万円也	今村	藤夫()
金五万円也	一色	良子()
金五万円也	大畑	猶彦()
金五万円也	吉岡	善一()
金五万円也	第新	秀一()

金壹千円也 南 清之助
 金壹千円也 竹下 豊馬
 金壹千円也 高松 忠吉
 金壹千円也 山本 忠秀
 金壹千円也 高木 勲八
 金壹千円也 大森 国松
 金壹千円也 野上 安一
 金壹千円也 高橋条太郎
 金壹千円也 池尻 武謙
 金壹千円也 阪本 信秀
 金壹千円也 糸雅 仁一
 金壹千円也 山近 儀助
 金壹千円也 山本 義之
 金壹千円也 田原 瑞雄
 金壹百円也 高田 英次

計 貳百五万四千六百円也

八、學校法人関西大學の部

金九拾五万円也 理事監事(才一・二回)

内 訳
 金貳拾万円也 白川 朋吉(理事 専務理事)
 金拾八万円也 久井 忠雄(専務理事)
 金拾万円也 岩崎 卯一(学長 理事)
 金七万円也 矢野 文雄(常務監事)
 金五万円也 宇佐美正耐(理事)
 金五万円也 木村 健助(理事)
 金五万円也 西本 寛一(理事)
 金五万円也 春原源太郎(理事)
 金五万円也 宮島 綱男(理事)
 金五万円也 森川 太郎(理事)
 金五万円也 西村治三郎(監事)
 金五万円也 西尾寺太郎(監事)
 金七拾九万九千円也 評議員(才一・二回)

金五万円也 中務 平吉(評議員 会長)
 金五万円也 經本 信雄(評議員 会長)
 金五万円也 阿部 甚吉(評議員)
 金五万円也 大石雄一郎(評議員)
 金五万円也 武田藏之助(評議員)
 金五万円也 長柄 金吾(評議員)
 金五万五千円也 桂 忠雄(評議員)
 金参万五千円也 池田信之助(評議員)
 金参万五千円也 大小島真二(評議員)
 金参万五千円也 神屋敷民藏(評議員)
 金参万五千円也 水谷 揆一(評議員)
 金参万五千円也 原田鹿太郎(評議員)
 金参万五千円也 山崎 敬義(評議員)
 金参万五千円也 明石 三郎(評議員)
 金参万五千円也 大島 武夫(評議員)
 金参万五千円也 関 豊馬(評議員)
 金参万五千円也 下条小野石衛門(評議員)
 金参万五千円也 村尾 静明(評議員)
 金参万五千円也 平井 三朗(評議員)
 金参万五千円也 内藤 正剛(評議員)
 金参万五千円也 保井 剛一(評議員)
 金参万五千円也 近藤 政士(評議員)
 金参万五千円也 三島 律夫(評議員)
 金参万五千円也 江里口春志(評議員)
 金参万五千円也 織田佐代治(評議員)
 金参万五千円也 竹沢喜代治(評議員)
 金参万五千円也 中村 正雄(評議員)
 金参万五千円也 政井 武(評議員)
 金参万五千円也 松葉徳三郎(評議員)
 金参万五千円也 矢口 家治(評議員)
 金参万五千円也 吉田三七雄(評議員)
 金参万五千円也 四辻 光(評議員)
 金参万五千円也 藤野 春三(評議員)

教育職員の部
 大学教育職員 (才一回分)

金八拾六万参千円也
 金五万円也 岡野留次郎
 金五万円也 森川 太郎
 金五万円也 飯田 正一
 金五万円也 植田 重正
 金五万円也 上道 直夫
 金五万円也 大小島真二
 金五万円也 高橋 盛孝
 金五万円也 堀 正人
 金五万円也 水谷 揆一
 金五万円也 山田松太郎
 金五万円也 明石 三郎
 金五万円也 井上吉次郎
 金五万円也 榎本金次郎
 金五万円也 金子又兵衛
 金五万円也 川上 敬逸
 金五万円也 澤瀉 久孝
 金五万円也 島田 退藏
 金五万円也 進藤浩二郎
 金五万円也 末永 雅雄
 金五万円也 田中 熙
 金五万円也 中井 駿二
 金五万円也 廣瀬 捨三
 金五万円也 福島 四郎
 金五万円也 藤田進一郎
 金五万円也 三木 治
 金五万円也 吉永 登
 金五万五千円也 小野 勇
 金五万五千円也 原 弘二郎
 金五万五千円也 横田 健一
 金五万五千円也 中 義勝
 金五万五千円也 石浜純太郎
 金五万五千円也 壺井 義正
 金五万五千円也 福本喜之助

内 訳
 金壹万円也 佐伯 三郎(才一回分)
 金壹万円也 廣岡 英雄
 金壹万円也 見次 直雄
 金壹万円也 渡辺宗太郎
 金壹万円也 藤本 是
 金壹万円也 三上 諱穂
 金壹万円也 山本栄一郎
 金壹万円也 秋山 博愛
 金壹万円也 鈴木 祥藏
 金七千円也 寛田 知義
 金七千円也 川口 昭男
 金参千円也 大西 昭男
 金八万八千円也 第一高等学校(才一回分)

金壹万五千円也 近藤 政士(評議員)
 金壹万五千円也 三島 律夫(評議員)
 金壹万五千円也 江里口春志(評議員)
 金壹万五千円也 織田佐代治(評議員)
 金壹万五千円也 竹沢喜代治(評議員)
 金壹万五千円也 中村 正雄(評議員)
 金壹万五千円也 政井 武(評議員)
 金壹万五千円也 松葉徳三郎(評議員)
 金壹万五千円也 矢口 家治(評議員)
 金壹万五千円也 吉田三七雄(評議員)
 金壹万五千円也 四辻 光(評議員)
 金壹万五千円也 藤野 春三(評議員)
 金壹万五千円也 岡野留次郎
 金壹万五千円也 森川 太郎
 金壹万五千円也 飯田 正一
 金壹万五千円也 植田 重正
 金壹万五千円也 上道 直夫
 金壹万五千円也 大小島真二
 金壹万五千円也 高橋 盛孝
 金壹万五千円也 堀 正人
 金壹万五千円也 水谷 揆一
 金壹万五千円也 山田松太郎
 金壹万五千円也 明石 三郎
 金壹万五千円也 井上吉次郎
 金壹万五千円也 榎本金次郎
 金壹万五千円也 金子又兵衛
 金壹万五千円也 川上 敬逸
 金壹万五千円也 澤瀉 久孝
 金壹万五千円也 島田 退藏
 金壹万五千円也 進藤浩二郎
 金壹万五千円也 末永 雅雄
 金壹万五千円也 田中 熙
 金壹万五千円也 中井 駿二
 金壹万五千円也 廣瀬 捨三
 金壹万五千円也 福島 四郎
 金壹万五千円也 藤田進一郎
 金壹万五千円也 三木 治
 金壹万五千円也 吉永 登
 金壹万五千円也 小野 勇
 金壹万五千円也 原 弘二郎
 金壹万五千円也 横田 健一
 金壹万五千円也 中 義勝
 金壹万五千円也 石浜純太郎
 金壹万五千円也 壺井 義正
 金壹万五千円也 福本喜之助
 金壹万五千円也 佐伯 三郎(才一回分)
 金壹万五千円也 廣岡 英雄
 金壹万五千円也 見次 直雄
 金壹万五千円也 渡辺宗太郎
 金壹万五千円也 藤本 是
 金壹万五千円也 三上 諱穂
 金壹万五千円也 山本栄一郎
 金壹万五千円也 秋山 博愛
 金壹万五千円也 鈴木 祥藏
 金七千円也 寛田 知義
 金七千円也 川口 昭男
 金参千円也 大西 昭男
 金八千円也 矢口 家治
 金五千円也 下島 光
 金五千円也 藤本栄治郎
 金五千円也 勝島 芳松
 金五千円也 川村 善助
 金五千円也 佐々木康雄
 金五千円也 原 雄次郎
 金五千円也 平田 善明
 金五千円也 長谷川雅樹
 金五千円也 黒岩 博
 金五千円也 馬渡権兵衛
 金五千円也 奥村 二郎
 金五千円也 富田恭二郎
 金五千円也 半井 清
 金五千円也 土部 弘
 金五千円也 堀江 藤晶
 金五千円也 栗駒 正和
 金五千円也 中小路泰夫
 金五千円也 浜口 誠也

金參千円也 渡辺加多二
金參千円也 西岡 宸
金七万八千円也 第一中学校

内 訳

金壹万五千円也 三島 律夫
金壹万円也 政井 武
金五千元也 岡持敬次郎
金五千元也 小林 清太
金五千元也 富永 敬夫
金五千元也 原田 勇
金四千元也 吉川 秀義
金四千元也 市田彌一郎
金參千円也 陰山 晃雄
金參千円也 佐橋 滋夫
金參千円也 高橋 猛
金參千円也 中野 真作
金參千円也 吉富 二郎
金貳千円也 木村 昌三
金貳千円也 清水 邦郎
金貳千円也 岩倉 猛利
金四千元也 幼稚園

内 訳

金壹千円也 渡辺百合子
金壹千円也 小林 和子
金壹千円也 荒木 道子
金壹千円也 橋田千代子

十、事務職員の一部 (第一回分)

内 訳

金參万五千円也 桂 忠雄
金參万円也 池田信之助
金貳万五千円也 安井 章吾
金貳万円也 土橋 四三

金貳万円也 天野敬太郎
金貳万円也 平井 三朗
金貳万円也 齋藤 善三
金貳万円也 鈴木 末広
金貳万円也 田中 一郎
金貳万円也 且 菊男
金壹万五千円也 鉄井 良男
金壹万五千円也 田中治良大夫
金壹万五千円也 水野 治
金壹万五千円也 木戸 一郎
金壹万貳千円也 後藤 壽昭
金壹万円也 徳田誠一郎
金壹万円也 水野 三郎
金壹万円也 齋藤 政信
金壹万円也 中山 敏
金壹万円也 山脇 智
金壹万円也 山村 彰
金壹万円也 天野 宗一
金壹万円也 吉田申一郎
金壹万円也 川澄 秋一
金壹万円也 宮脇慎三郎
金壹万円也 城内 俊直
金壹万円也 山口 辰男
金壹万円也 中江 巽
金壹万円也 秋山 剛
金八千円也 森 浩志
金八千円也 有福 健
金八千円也 佐伯 博臣
金七千円也 松家 繁一
金七千円也 山元 文雄
金七千円也 高木 新
金六千円也 赤松 祐玄
金六千円也 山本 景造
金五千円也 羽野 堅二
金五千円也 大山 綱憲(第一回分)

金五千円也 松本長右衛門
金五千円也 村上 仙三
金五千円也 阪本銀之助
金五千円也 岡田 武司
金五千円也 辻見 重行
金五千円也 金田 雅一
金五千円也 酒井 彦一
金五千円也 山景 耕作
金五千円也 横山 茂昭
金五千円也 出水 泰祐
金五千円也 塩崎 三郎
金五千円也 小幡 務
金五千円也 西尾 康
金五千円也 山中 林三
金五千円也 野原 博
金五千円也 浜瀬 義雄
金五千円也 上田彌三郎
金四千五百円也 原 幸作
金四千五百円也 片岡権治郎
金四千五百円也 山路 貞藏
金四千五百円也 大沢寛治郎
金四千円也 鈴木 得稔
金參千五百円也 郡司 英雄
金參千五百円也 穴田 元治
金參千五百円也 田村 桂一
金參千五百円也 米田 三保
金參千五百円也 伊藤 富夫
金參千五百円也 中村 富夫
金參千五百円也 藤本 龍造
金參千五百円也 渡辺 五郎
金參千円也 松本 俊
金參千円也 植村憲三郎
金參千円也 杉原 常彦
金參千円也 八鳥 妙子
金參千円也 小西 芳子

金參千円也 藤雄 静枝
金參千円也 大浜 永子
金參千円也 磯矢 健吉
金參千円也 河野ツヤ子
金參千円也 下村松次郎
金參千円也 田中總代治
金參千円也 四井庄太郎
金參千円也 横田美壽子
金參千円也 盛 清子
金參千円也 芳田 文子
金參千円也 古志 祐一
金參千円也 石橋 直造
金參千円也 安宅 雅夫
金參千円也 大浦 まさ
金參千円也 山野 棧松
金參千円也 龜井富之助
金參千円也 永易愍太郎
金參千円也 武田 正夫
金參千円也 水口 博喜
金參千円也 山本 チカ
金參千円也 元永 栄
金參千円也 中山 義一
金參千円也 土肥治一郎
金參千円也 萬里小路通宗
金參千円也 荒木 淑子
金參千円也 中川 義信
金貳千五百円也 西原 七
金貳千五百円也 西村富美子
金貳千五百円也 水野 敏雄
金貳千五百円也 細部榮三郎
金貳千五百円也 田中美津子
金貳千五百円也 小谷 久子
金貳千五百円也 岸田要次郎
金貳千五百円也 杉島 治郎
金貳千五百円也 石田 才之
金貳千五百円也 井上 静子

金貳千五百円也 棚田ひさの
 金貳千五百円也 高田 静子
 金貳千五百円也 野元 喜藏
 金貳千五百円也 山本亥太郎
 金貳千五百円也 上田 久子
 金貳千五百円也 山下 正隆
 金貳千五百円也 阪本 龍三
 金貳千五百円也 工藤まさの
 金貳千五百円也 氏原 みの
 金貳千五百円也 田熊謂津子
 金貳千五百円也 森川 彰
 金貳千五百円也 大橋 勲
 金貳千五百円也 井村 昌子
 金貳千五百円也 増原佐智子
 金貳千五百円也 向井喜代子
 金貳千五百円也 前田 房吉
 金貳千五百円也 西 沢子
 金貳千五百円也 木林 絹子
 金貳千五百円也 森本 甫
 金貳千五百円也 渡辺 延子
 金貳千五百円也 多田 幸子
 金貳千五百円也 加藤 智子
 金貳千五百円也 寺岡 正子
 金貳千五百円也 谷 千代
 金貳千五百円也 宮井 光子
 金貳千五百円也 中地 三雄
 金貳千五百円也 北村 秀子
 金貳千五百円也 森 セツ
 金貳千五百円也 植田ミサエ
 金貳千五百円也 石田フジエ
 金貳千五百円也 坪内 貢
 金貳千五百円也 赤松 猛
 金貳千五百円也 伊勢 計典
 金貳千五百円也 横田 育子
 金貳千五百円也 上山 喜雄
 金貳千五百円也 高瀬 欣和
 金貳千五百円也 木田 朋子
 金貳千五百円也 松永 稔

金貳千円也 池田 ミツ
 金貳千円也 山中 葉子
 金貳千円也 市山 久栄
 金貳千円也 稻置 和子
 金貳千円也 三浦 洋子
 金貳千円也 小西愛之助
 金貳千円也 今村 公子
 金貳千円也 西本 眸
 金貳千円也 梶山 絹
 金貳千円也 山崎 節
 金貳千円也 真下香代子
 金貳千円也 宮中 市子
 金貳千円也 上之山慶一
 金貳千円也 船引潤一郎
 金貳千円也 上林 邦子
 金貳千円也 大場 義之
 金貳千円也 松下 健次
 金貳千円也 広野壽美子
 金貳千円也 今村 嘉之
 金貳千円也 加藤 幸広
 金貳千円也 大西壽美子
 金貳千円也 橋長 菊子
 金貳千円也 勢井 かう
 金貳千円也 山口 秀児
 金貳千五百円也 山下喜久子
 金貳千五百円也 宮脇喜三江
 金貳千五百円也 松尾 京子
 金貳千五百円也 田中 忠雄
 金貳千五百円也 上江 正久
 金貳千五百円也 福西 照子
 金貳千五百円也 若林志津江
 金貳千五百円也 淡野 明子
 金貳千五百円也 茅野 成見
 金貳千五百円也 岡 末弘
 金貳千五百円也 酒井 敏江
 金貳千五百円也 野口 末吉
 金貳千五百円也 土井原雅夫

金壹千五百円也 神村 俊一
 金壹千五百円也 吉岡 達郎
 金壹千五百円也 睦好 貞子
 金壹千五百円也 松岡 勇
 金壹千五百円也 木下 正信
 金壹千五百円也 上田 幸子
 金壹千五百円也 水村 法親
 金壹千五百円也 木谷 道子
 金壹千五百円也 河野すみ代
 金壹千円也 岩下 欣哉
 金壹千円也 吉村 安夫
 金壹千円也 江原 静雄
 金壹千円也 福永 栄
 金壹千円也 大和 稠
 金壹千円也 石田 幸一
 金壹千円也 東浦満智子
 金壹千円也 稻置 啓一
 金壹千円也 山本 忠子
 金壹千円也 山本 泰正
 金壹千円也 田尾 剛次
 金壹千円也 小谷 信隆
 金壹千円也 小杉 浩
 金壹千円也 渡辺みち子
 金参百五拾円也 増田 実
 金参百五拾円也 北岡九十九之助
 金参百五拾円也 速水勇千代
 金貳百五拾円也 藤井 義夫
 金貳百五拾円也 北岡終一郎
 金貳百五拾円也 室井 ぶく
 金貳百円也 平井 義美
 金百五拾円也 菊井 久吉
 金百五拾円也 古堀 藤一
 金百円也 堀尾 洋子
 計 九拾四万貳千九百円也
 合計 壹千八百拾四万壹千六百円也
 (合計は重複申込金額を含まない実寄附金額である)